平成24年度　学校評価総括表(その1)

奈良県立生駒高等学校

教育目標	自立した社会人の育成を目指して、「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人間性を育み、心身を鍛えることによって一人ひとりが高い志をもって目標達成に向けていきいきと行動できる生徒を育てる。	総合評価
運営方針	・教育活動を充実させ、生徒一人一人の個性や創造性を大切にし、元気でうるおいのある学校を目指す。 ・より質の高いレベルでの文武両道をやり抜き、将来への高い志の実現を積極的に目指す生徒を育てる。	

平成23年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
教員相互による授業観察や英語教育改善事業等の取組により、授業の質の向上が見られた。一方、家庭学習時間が十分でない生徒も見られ、早い段階から将来の目標を掲げて地道に学習する習慣をつけさせたい。	生徒の学習意欲を高める授業の工夫と改善を図る。	・校内研究授業の活性化　・英語教育指定研究の成果の継続発展　・教員の資質向上を図る研修の充実　・授業アンケート等の活用	B
	基本的生活習慣と学習習慣を身に付けさせる。	・ルールの遵守とマナーの向上　・家庭学習の充実　・学習指導と部活動指導との連携　・遅刻の減少	
	将来の目標を定め、社会で自立して生きていく力を身に付けさせる。	・新学習指導要領に向けた教育課程の改善　・進路指導の充実　・キャリア教育の推進　・総合的な学習の時間の効果的な活用	
	心身を鍛え、忍耐力と集中力を身に付けさせる。	・学校行事や生徒会活動の活性化　・部活動の奨励とその効果的な指導の工夫　・人権意識の向上	
	学年・分掌間の連携を強め、家庭や地域と協力して3年間を見通した指導体制を整えるとともに、創立50周年事業に向けて全校体制で取組む。	・積極的な情報の収集と発信　・地域と連携した体験活動の充実　・危機管理体制の構築　・安全教育や食育の推進	

評価項目	具体的目標（評価小目標）	具体的方策	評価指標	中間期（9月）自己評価	中間期（9月）進捗状況	年度末（3月）自己評価			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
第1学年	規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	中学校との違いを認識させ、服装の乱れ・頭髪違反などを見逃さずにねばり強く指導をする。遅刻や欠席等時間厳守の徹底し、授業を大切にし集中して取り組ませる。	遅刻の各クラス別年間総数の平均 50回未満A　70回未満B 90回未満C　90回以上D	B	遅刻等時間についてはよく守ってくれている。しかし、幼い行動等が目立つ。落ち着いた高校生活が遅れるよう日々指導が必要である。	B		B	遅刻や時間厳守および服装等の基本的生活習慣は定着してきた。クラスでの日々の指導の成果で、3学期に入り行動等にも落ち着きが出てきた。	小さなことも見逃さず、日々、指導を行っていく。	学習に関して、早い段階から目的意識を持たすことが大切である。そのために夏期休業中に、大学等をグループで訪問させてレポートを提出させたり、集会や学年たよりの発行などを通して、3年間の見通しを持った進路指導に取り組んでいることは評価したい。 生活指導においては、入学当初は高校生としての規範意識が低く、集団行動ができない生徒がかなりいたが、機会あるごとにあいさつの大切さや服装の着こなしを指導される中で生徒の意識も変わってきたということなので粘り強く指導し続けてほしい。 また不登校生徒や学習障害・発達障害の生徒も在籍していると聞く。是非スクールカウンセラーの常置を実現してもらいたい。
	基礎学力を充実させ、学校生活を意欲的に過ごす姿勢を育てる。	学習と部活動の両立を目指す生徒を多く育てる。	部活動の加入率 70%以上A　65%以上B 60%以上C　60%未満D	A	80%近い生徒が部活動に励んでくれている。	A	B		退部した生徒も少なく、部活動で元気でたくましく成長してくれている。	挫折しないように、声かけ等側面からの支援をしていく。	
		基礎学力の充実を図るため、家庭学習の習慣を身につけさせ、「わかる」授業を展開する。	学力が向上していると思っている生徒が 70%以上A　60%以上B 50%以上C　50%未満D	B	成績に不安を持つ生徒が増えてきて様である。日々の授業への取り組みを充実させていく必要がある	B			学習への意識が高まってきた生徒は増えてきているが、一方で、意識が低い生徒をどう指導していくか大きな課題である。	日々のこまめな指導で、学年全体に学習意識を定着させていく。個別指導を、定期的に行っていく。	
			平日の平均家庭学習時間が 2時間以上A　1.5時間以上B 1時間以上C　1時間未満D	B	英単合格率がなかなか上がらず、家庭学習が不十分である。根気強く指導する必要がある。	B			英単の合格率がなかなか上がらず、家庭での学習が定着していない生徒へどう指導していくか課題である。来年度に、成果が出るように3学期から不合格者への指導行っている。		
	自分の将来について考える姿勢を養う。	自らの興味・関心に基づき、適性を探り、進路についての考えを深め、確固たる進路目標を持たせる。	総合学習やLHRの時間を活用し、第1学年の間に進路目標が定まった者が 70%以上A　60%以上B 50%以上C　50%未満D	B	夏休みのオープンキャンパスで進路目標が決まった生徒と決まらない生徒の意識差が開いたようである。現在、進路、科目選択に向け指導中である。	B	B		具体的な進路目標がある生徒が増えてきている。それにともなって家庭学習を定着させ、少しずつ時間を増やさせていくことが来年度への課題である。	進路目標が定まっていない生徒へ、個別指導を2年の早い段階から行っていく。	
		学年だよりを配布するなど、啓発に努め進路目標、部活動目標など、目的意識を持たせ、自己実現に向けて地道に努力させる。	「学年だより」を 各学期に1回以上配布　A 年間に3回以上配布　B 年間に2回以上配布　C それ以下　D	B	1学期末に学年便りを配布し、夏期休業中の過ごし方等の啓発を行った。今後も、実のある啓発を行っていきたい。	B			基本的生活習慣への啓発は、一定の成果があった。今後は、家庭学習意識が向上するように内容を工夫していきたい。	生徒が興味関心を持つ内容にする。	
第2学年	基本的生活習慣を確立させる。	保護者や関係機関との連携を図り、生活の乱れや心身の不調に注意し、遅刻・欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。特に不注意や寝坊を原因とする遅刻の減少を目標に指導する。	遅刻の各クラス別年間総数の平均 50回未満　…　A 70回未満　…　B 90回未満　…　C 90回以上　…　D	B	1学期の学年遅刻総数は216回であった。クラス平均にすると27回になる。通院等の遅刻も含まれるので、怠惰や不注意による遅刻は、本学年については少なくなっている。欠席や遅刻における基本的生活習慣はある程度できていると思う。	B	B	C	1学期の遅刻は224回、2学期は233回でこの時点で合計457回となる。クラス平均では57回となる。遅刻の主な理由は、基本的生活習慣の乱れからくる睡眠不足や忘れ物などの不注意が大半なので、保護者との連携を図り、粘り強く指導していきたい。	生徒個々の問題を共有し、保護者との連携を図る。	遅刻の回数が多いと思われる。理由は様々であろうが、今の学習が将来の進路実現に大きく関わるのだという意識を持たせて、学校生活に前向きな生徒の育成に努めてほしい。 2年生は部活動の中心であるから家庭学習の時間がなかなかとれないことはわかるが、時間がないことで逆に集中して勉強する、気持ちの切り替えを早くするなど、工夫すれば、いくらでも効果的な学習ができるので、学習時間の長さではなく、中身で対応していくことが大切である。
		部活動の加入率70%以上の維持を目標とし、卒業まで学業と部活動の両立が図れるように支援をする。	70%以上　…　A 65%以上　…　B 60%以上　…　C 60%未満　…　D	A	体育部加入生徒が148名、文化部が71名と、70.2%が部活動に加入して、熱心に活動している。本校の特色であるが、学業との両立を目指していきたい。	B			体育部加入生徒が135名、文化部が74名で、加入率が67.4%となり7割を下回った。部活動で3年生が引退し、中心となって活動する反面、学習に対する不安感が出てくる時期でもあり、加入率が下がったと考えられる。学業との両立をうまくこなせるよう支援していきたい。	模試の実施日や補習の日程等を配慮しながら、卒業まで学業と部活動の両立が図れるように支援をする。	
	学力を向上させ、充実した学校生活を送らせる。	基礎学力の充実と、自主的に発展的な内容にも取り組む姿勢を育てるために、授業改善を行い、家庭学習を習慣化させる。	学力が向上していると感じている生徒が 70%以上　…　A 60%以上　…　B 50%以上　…　C 50%未満　…　D	D	そう思うが12.0%、ややそう思うが36.5%で、合計48.5%。1学期のアンケート結果であるが、模擬試験の結果も示すように学力の低下は否めない。学年として、秋以降重点的に取り組んでいきたい。	D	D		2学期のアンケート結果では、そう思うが7.2%、ややそう思うが39.5%で、合計46.7%が学力の向上を実感している。家庭学習が定着していない→予習・復習が出来ていない→学力向上しない、という負のスパイラルをなくしていきたい。	基礎学力の充実と、発展的な内容にも取り組む態度を育てるため授業改善を行うともに家庭学習を習慣化させるため、目的意識を持ち学習ができように積極的に助言をおこなう。	
			平日の平均家庭学習時間が 3時間以上　…　A 2時間以上　…　B 1時間以上　…　C 1時間未満　…　D	D	部活動に熱心に取り組んでいるから、「時間がない」では済まされない。平日の学習時間は学年212時間と平均すれば40分となる。土日でも319時間と平均61分と、定着しているとは到底言えない時間である。	D			2学期のアンケート結果（11月27日）では、平日の学習時間は学年206時間で一人平均40分、土日では350時間で一人平均69分となった。毎日1時間以上学習している生徒は100人で、家庭学習のさらなる定着が課題である。		
	自己の将来をみつめ、目標達成のために自ら努力する力を養う。	進路目標、部活動目標など、目的意識を持たせ、自己実現に向けて地道に努力させる。生徒、保護者に進路について興味・関心を持ち、理解を深めてもらうため「学年通信」などを作成し、進路情報の発信に努める。	各学期に1回以上配布　…　A 年間に3回以上配布　…　B 年間に2回以上配布　…　C 年間に1回以下　…　D	B	1学期の三者面談で、学年便りを配布した。学校行事や学習活動、進路目標の確定等、情報発信の機会を増やしていきたい。	B			学期の終わりに学年便りを配布した。生徒・保護者に向けたものだが、生活面・学習面ともに啓発がはかられたと思う。	学校行事、学年集会やHRとより連動した内容にする。	

平成24年度　学校評価計画表(その2)

奈良県立生駒高等学校

評価項目	具体的目標　（評価小目標）	具体的方策	評価指標	中間期（9月）		年度末（3月）					
				自己評価	進捗状況	自己評価			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
第3学年	基本的な生活習慣を確立させ、充実した学校生活を送らせる。	保護者や関係機関との連携を図り、服装・頭髪・言葉遣いや生活習慣の乱れなどを見逃さず、粘り強く指導を続け、授業に集中して取り組む姿勢を養う。特に遅刻については状況に応じて指導を強化し、不注意や寝坊を原因とする遅刻の減少を目標に指導する。	遅刻の各クラス別年間総数の平均 50回未満A　70回未満B 90回未満C　90回以上D	D	1学期の遅刻総数は569回で1クラスあたり63.2回である。怪我や病気による通院等も少なくないが、不登校傾向を示している生徒に集中している。また寝坊や怠惰によるものには継続的な指導が必要である。	D		B	年間の遅刻総数が学年全体で 約1500回(①569回、②908回) となり、大きな課題を残した。	・進路に関わり、学習時間が増え、生活が夜型に進む傾向があった。そのため朝起きがスムーズに行えず寝過ごすことが見うけられた。 ・学習塾で帰宅が遅くなる傾向があった。 ・受験と関連させ、入試日の関係から朝型の学習への転換を促す工夫が必要であると思われる。	進路実現に向けて、先生方がしっかりと取り組んでいることは承知している。ただ生徒の取組がやはり遅いと思う。一方でどこの大学に何人合格したかというような数字に踊らされる進路保障ではなく、生徒の思いや願いをくみ取った進路指導をお願いしたい。
	積極的に学習に取り組む姿勢を持たせ、部活動との両立を目指させる。	自らの適性や興味・関心を見つめ、進路実現に向けて前向きに努力する姿勢を育成するため、ホームルームにおいて担任・副担任が日常的に生徒に語りかけるとともに、学年集会等を実施し、意識の向上を図る。	学年集会を 各学期に2回以上実施A 年間に4回以上実施B 年間に3回以上実施C それ以下D	A	4月、7月、8月に実施した。生活面の安定と、進路目標実現のための意識向上を目的に、講話を行った。	A			・12月および1月に実施。 ・卒業に向けて、2月にも実施する予定である。		
	目標達成のために最大限の努力をさせ、各自の進路希望を実現させる。	基礎学力の充実をめざし、さらに発展的な内容に取り組む態度を育てるため、積極的に授業改善を行うともに家庭での学習を習慣化させる。また、放課後や長期休業中に開かれる実力養成講座への積極的な参加を促し、学力の伸長をはかる。	学力が向上していると思っている生徒が 70%以上A　60%以上B 50%以上C　50%未満D	B	生徒アンケートにおいて、学力が向上したと感じている生徒が60.4%である。授業等を通して学力向上に努めたい。	A	A		・11月27日実施のアンケートにて、学力が向上していると思っていると、77%以上の生徒が回答した。 ・基礎学力の充実と、発展的な内容にも取り組む授業の成果があったのではないかと思われる。	・卒業に向けて、進路決定後の学習に対する取り組みが維持できない生徒への対応が必要であると思われる。	
			平日の平均家庭学習時間が 4時間以上A　3時間以上B 2時間以上C　2時間未満D	D	生徒アンケートで、2時間以上学習していると答えている生徒が、44.2%しかいない。	B			・11月27日実施の生徒アンケートにて、単純平均、中央値が3時間～4時間のところであった。 ・やっと目的意識を持ち学習ができ、家庭学習が習慣化してきたように思われる。		
		「学年だより」の配布などを通じ、進路目標、部活動目標など目的意識を持たせ、自己実現に向けて地道に努力させるよう生徒、保護者に啓発を行う。	「学年だより」を 各学期に1回以上配布A 年間に3回以上配布B 年間に2回以上配布C 年間に1回以下D	A	今後も、いろいろな機会、手段を活かして、情報発信に努めたい。	A			各学期に1回以上、年間で6回配布でき、生徒への啓発がはかれた。	学校行事、学年集会やHRとより連動した内容にできた。	
総務	学校運営が円滑に行えるように対処する。各種出版物、学校説明会、授業公開等充実したものにする。	各分掌と連携し、儀式や全校朝礼等充実したものにする。学校経営計画、学校案内リーフレットやホームページ等を充実し、中学生・保護者に本校の方針等を理解してもらう。	アンケートを実施し、たいへんよく理解できたA　理解できたB　普通C　あまり理解できなかったD。ホームページ掲載の質・量が昨年より大幅増A、増B、同程度C、減D。	B	学校経営計画、学校案内リーフレットも予定通り刊行できた。学校説明会は生徒760名、保護者160名の参加者があった。本校の教育方針等よく理解できたとの感想をいただき、概ね好評であった。	B		B	保護者及び生徒のアンケート結果は、本校教育の基本方針等よく理解していただいた。	参加クラブを増やしていきたい。	先生方が実によく動かれたことで、創立50周年記念事業が成功裏に終えたことは大きな財産になると思う。 情報発信の大きなツールとしてHPがあるので、今後も積極的な更新に努めてもらいたい。
	育友会、樫葉会、樫木会活動を活発化させる。	理事会、各部会の取り組みを充実させ、ホームページ、育友会広報誌「けんゆう」等を通じて情報発信をする。	年度末の学級委員等でアンケートを実施し、育友会活動が大いに活性化したA、活性化したB、同程度C、沈滞D。	B	理事会、各部会も順調に開催している。文化祭の取り組みも7割のご家庭からバザー品を提供していただいた。樫木会も大いに援助いただいた。	B			各クラブの掲載量が増えた。	試合、演奏会、行事ごとに更新していきたい。	
学習指導	各教科で基礎学力の充実に努めると共に発展的な学習にも目を向けさせ、確かな学力の養成に努める。	英単テストを、基礎学力定着の要と捉え徹底的に取り組ませる。	課題提出率 95%以上A 90%以上B 85%以上C 85%未満D	A	各学年の粘り強い指導により、ほぼ全員の課題提出を達成できている。	A		A	各学年、ほぼ全員の課題提出を達成できている。	テストの難易度や、合格率向上のための方策についても議論を深めていく。	先生方がお互いに授業観察をし、研鑽を積んでいることは大いに評価できる。今後も生徒にとってわかる授業を展開してほしい。それとともに、生徒が先生の指示を待っているのではなく、自ら考え、行動できるように育ててほしい。
		各人年に1度は自教科の授業と、他教科の授業の授業参観の機会を持つ。	授業参観への参加率 80%以上A 60%以上B 40%以上C 40%未満D	A	数値の方は、他教科の授業参観がすんだ後、11月頃にアンケートを実施して確定させるが、感触としてはおおむね参加してもらえていると思う。	A			2学期末にアンケートを実施、 提出者、52名中46名のうち 自教科の授業43名参観 他教科の授業43名参観 という結果で、アンケート提出者でみて 82。7%の参加率であった。	数値としては左記のようであったが、さらにアンケートの記述部分を検討して、あり方を再検討していく。	
教務	個々の生徒が目指す進路目標に応じた多様な教育課程を編成する。	教育課程表提出の11月までに、学修推進委員会・教育課程検討委員会を効果的に開催する。	開催回数　4回以上A　3回B　2回C　1回以下D	A	新指導要領への対応が急を要したため、8月までで、教育課程検討委員会を3回、学修推進委員会を1回、計4回実施した。年度後半は、奈良TIMEへの対応を急がねばならない。	A		B	11月までに教育課程検討委員会を 4回、学修推進委員会を正規に1回、 他の会議に合わせて2～3回開いた。 「奈良TIME」への対応は、各教科・科目 等の中で実施することに決定した	さらに、学修推進委員会等と 連携を図り、議論を深めていく。	
		次期教育課程研究のため、教務部員は関連した研究集会等に各人年1回以上参加する。	参加率 80%以上A 60%以上B 40%以上C 40%未満D	B （人数） B （延べ数）	教務部員8名中5名が、延べ6回の教科の研究集会や新教育課程説明会等に参加した。	B （人数） A （延べ数）			部員8名中6名が、延べ9回の教科の研究集会や新教育課程説明会等に参加することができた。	新教育課程へのよりよい対応 に向けて、より広く参加をして いきたい。	

平成24年度　学校評価計画表(その3)

奈良県立生駒高等学校

評価項目	具体的目標　（評価小目標）	具体的方策	評価指標	中間期（9月）		年度末（3月）					
				自己評価	進捗状況	自己評価			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	通学路マナー、挨拶の励行推進を生活委員活動として実施する。 日々の登校指導を充実させ、服装・頭髪の点検や挨拶の奨励をする。	6回以上増A 4回以上増B 同程度C 3回以下減D	B	1学期に1回4日間実施。2学期にも実施を計画している。	A	B	B	積極的な挨拶をする生徒が増えてきた。来校者にも挨拶をを交わし、お褒めの言葉をいただいている。活動に参加した生活委員から、挨拶を交わせたら気持ちがよかったという感想もある。 通学路マナーでは苦情もいただいている。ケータイ電話の画面を見ながら歩く者が増加している	生活委員でけでなく、より多くの有志の参加を呼びかけ、挨拶やマナーの向上を考える。 また、感謝の気持ちをもって通学をし、適切な対応ができるように指導する。	生徒たちはきちんとした姿で登下校しているが、中に地域の人とトラブルを起こしたり、あいさつがうまくできない生徒がいる。地域の見回りパトロールの人は、黄色いジャンパーを着ているので、よくあいさつをしてくれるが、それ以外の地域と人には、少しあいさつが足りないと思う。地域の人とコミュニケーションをとれるというのは、我が身を守ることにつながると思うので、安全という観点からもあいさつの重要性を伝えてほしい。
		校外指導を充実させ、電車内、ターミナル指導を実施する。規範意識の向上を目指す。	6回以上A 5回B 4回C 3回以下D	B	1学期に駅構内と車内での様子を、巡視指導した。特に、定期考査期間の指導を充実させた。	A			定期考査期間に時差下校を実施した結果、通学路や駅ホームの混雑状況が概ね解消された。 車内では、座席をゆずる等の行動に感謝の連絡などもいただいている。	引き続き規範意識の向上を目ざす取組をしていく。 また、良い行動を自己評価させ 紹介をしていく。	
		不注意、寝坊等での遅刻回数の減少を図る。	前年比　10%以上減A 5%以上減B 同程度C 5%以上増D	B	毎朝、校門で遅刻者の確認をしている。	A			８：35～８：50までの間で遅刻理由を確認している。1，2学期で延べ478回の数がみられる。減少はしているが、繰り返し回数を重ねる者が多くでている。	時間に余裕をもった行動を家庭とも連携して習慣ずける。 放課後に反省文等を書かせて自己分析を取り入れていく。	
	教職員共通理解の下に生徒指導を行う。	生徒指導内規における、特別指導数を減少する。	前年比　30%以上減A 20%以上減B 10%以上減C 同程度D	B	1学期の指導数、1年10名・2年8名・3年5名である。うち、ケータイによる指導が1年4名・2年2名・3年1名である。	C			指導の総数は37件、うちケータイ電話に関わものが18件であった。ケータイ以外でも半数の指導があり、学校内・外での生活の乱れが気になる者がいる。	規範意識などの、マナー・ルールを守るといった、人としての実力をつけさせる。	
	家庭や地域、関係諸機関との連携を強化する。	休業中の生徒心得や保護者宛文書を通じて啓発する。また、育友会生活部の活動を通して連携を図る。生徒心得及び保護者宛文書発行する。	6回以上A 5回B 4回C 3回以下D	A	春期、夏期休業及び5月の連休中の諸注意を配布した。1学期末に「生徒指導だより」の配布。	A	B		休業中大きな事故や事象も無く過ごしてくれた。 「生徒指導だより」では、職員からのメッセージやアンケート結果を掲載し、また、高校生に関わる注意を促す記事等を載せ、保護者に協力をもとめている。	学校内・外での生徒の様子などを知らせていき、引き続き実施していきたい。	
		地域における補導活動への参加を充実する。	6回以上A　5回B　4回C　3回以下D	C	1度しか参加できなかった。情報収集や補導にあたりたい。。	C			会議。出張等た重なり十分に参加できなっかた。 副部長とも連携をとりながら参加にいたった。	連携をとりながら参加していきたい。	
進路指導	進路保障を本校教育の総和と捉え、その実現に努める。	生徒一人一人を大切にし、その可能性を伸ばすために基礎学力の充実に努める。また、校内で各種の講習会を企画し、生徒の多様なニーズに応える。	校内で開催されたの講習の総週数 30週以上：A 20週以上：B 10週以上：C 10週以下：D	B	8月末までに、公式に募集された校内の講習で10週が実施され、夏期講習3週は1科目あたり10～15回が集中的に実施されている。ｻﾃﾗｲﾄ講座と職員が個別に開いた講習がある。	B		A	中間期から1月末までの講習は冬期休業中も含め12週であり、年間を通すと22週となった。冬期講習は夏期同様に集中的に実施された。入試も近づいた時期でもあり、リスニング対策などCTに備えたものとなった。	授業でもって力をつけるのが本来のあるべき姿であることをわれわれも生徒も忘れることなく、よりいっそう生徒のニーズに応じた講習のあり方を模索していく。	家以外で学習できる場所、スペースを学校で確保してほしい。予備校や塾でも勉強できるだろうが、学校の中に自習室があり、質問があればすぐに先生に聞けるという環境がほしい。 また生徒だけでなく、保護者にも進路に関して情報を提供し、啓発するために保護者向け講演会を複数回開くという取組は大変有意義なのでどんどん進めてほしい。
		GS・HR等を活用して「進路調べ」をし、個々に応じた職業観を育成し、進路実現に役立てる。また、外部からの講師を招いての進路研究会を企画する。	研究会の企画回数について、 教員向け1回以上かつ生徒向け1回以上：A 生徒向け1回以上：B 教員向け1回以上：C 進路研究会を開催できず：D	A	予定通り、6月に3年生と保護者向け、9月に2年生と保護者向けの講演会を実施した。各学年職員向けには模試結果を見ての講習会を実施し、3年生職員向けには予備校主催の進学説明会への参加を促した。	A			「進路調べ」は1、2年生についてはGSの休業中の課題として取り組むこととなったほか、2年生については11月にGS・HRの時間を活用して「進路探究会」を実施。多くの上級学校に来校いただき模擬授業や学校説明を受けることができた。教員向けには外部での研究会参加を勧めてきた。	保護者については、生徒向けの講話を傍聴するという形式ばかりなので、今後は保護者主体の研究会にも取り組んで行きたい。	
	進路情報を充実し、利用しやすい環境を整備する。	ここ数年の課題であった進路指導室のレイアウトの変更を行い、進路情報の収集、活用にふさわしい進路指導室を目指し、資料の提供方法にも工夫する。	生徒アンケートにおいて、資料が利用しやすかった 70%以上A 60%以上B 50%以上C 50%未満D	―	アンケートはまだ実施していない。	A			進路指導室内のレイアウト変更を行い、進路指導部員の常駐化を図り、ホームルーム教室への資料の積極的な提供にも取り組んでみた。生徒対象のアンケート結果によれば、否定的な評価が減少した。	情報提供の方策については、試行錯誤をいとわず今後もたゆまず改善を試みていく。	
		「進路のてびき」を全生徒に配布し、進路HR指導案の資料として使用するなど、有効活用を図る。	生徒アンケートにおいて、「進路のてびき」が役に立った 70%以上：A 60%以上：B 50%以上：C 50%未満：D	―	進路の手引きは6月に発行した。アンケートはまだ実施していない。	A			前年度に比べ、「役に立たない」という否定的な評価は減少したが、さりとて「役に立つ」という評価が増えたわけでもなかった。新入生と受験生に同じものを配布している現状の限界があるように受け止める。	「進路のてびき」の発行そのものも含めて現行のあり方を見直す必要性を感じている。「入試結果資料」の配布と、学年に応じた情報提供のあり方を検討する。	
人権教育	人権意識を高め、行動できる生徒を育てる。	月１回、人権教育HR時間を確保する。	月平均 月1回A　月0.8回B　月0.6回C　月0.4回以下D	A	1学期中においては、人権教育HRを月１回、確保することができた.	B		A	人権教育HRの月１回実施を目指したが、やや達成できなかった。	日程の調整などを行い、積極的に人権教育HRを確保していきたい。	いじめ問題は、非常に重大で緊急の問題であると思う。先生方がしっかりとアンテナを張り、生徒とのコミュニケーションを豊かに持つことによって、重大な事件に発展するのを防ぐことができると思う。HR等を使って絶対にいじめを許さない学校を作ってほしい。
	ともに支え合う「なかま集団」づくりを行う。	1学期に、各クラスで「なかまづくり」の取組を実施する。	生徒アンケートにおいて、「なかまづくり」 が“よくできた”と“まあまあできた” 80%以上A　70%以上B　60%以上C　60%未満D	A	「なかまづくり」については、“よくできた”と“まあまあできた”とで95．5%の回答があった。	A			第一学年でインターネットの問題についても展開しているが、「いじめ」問題を取り上げたHRも必要ではないかと痛感している。	「いじめ」問題の展開について検討を図ると共に、他の問題についても、新たな教材を提示できるよう努力する。	
	地域社会における人権の確立に参加する。	“かざぐるま”との交流（見学実習）を、1年各クラス年1回実施する。また、行事における交流を行う。	生徒アンケートにおいて、“大変よかった”と“まあまあよかった” 80%以上A　70%以上B　60%以上C　60%未満D	A	生徒の感想も「よかった」というものが多く、“大変良かった”と“まあまあよかった”とで89．0%の回答があった。	A			第一学年の“かざぐるま”見学実習も効果を上げている。また、人権委員を中心とした文化祭での活動や、育友会の見学実習、牛乳パック回収活動などで交流が深まった。	見学実習や交流の他に、学校として「かざぐるまつり」への参加など地域におけるボランティア活動にも積極的に参加する。	

平成24年度　学校評価計画表(その4)

奈良県立生駒高等学校

評価項目	具体的目標　（評価小目標）	具体的方策	評価指標	中間期（9月）		年度末（3月）				
				自己評価	進捗状況	自己評価		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
教育支援	様々な生徒に対して心の安定をはかる。進学についても支援を行う。	教育相談体制について人権教育部の支援を受けて協力体制を整え、学年・担任・関係部署と連携をはかり、進学についても指導を行う。	情報交換会回数（月平均） 月1回以上 A　月0.8回以上 B　月0.6回以上 C 月0.4 回以下　D	B	情報交換会は定期的には開催できませんでしたが、スクールカウンセラーが来校されることになり相談件数も増加してきた。	A	A	スクールカウンセラーが来校され、相談件数も増加し、教育相談に関して大きな存在となり多大な効果があった。情報交換会については定期的には開催できなかった。	人権教育部の支援を受けて協力体制を整え、より適切な連携ができるようにする。	来年度もスクールカウンセラーの配置をお願いしたい。
保健体育	生徒の体力増進を図る。	体育系クラブ入部率65%以上とする。	65%以上A　50%以上B　45%以上C 45%未満D	B	1学期末の加入率は53．4% 2学期に向け、下がる可能性がある。	C	C	1年生57，1%、2年生42，5%でトータルで49，8%で昨年より1，1%プラスであるが50%を割りこんだ。	新入生の体力等が、年々落ちる中改善は難しいものがあるが、新入生の最初の加入方法を、工夫し加入率を向上させていきたい。	入学して1年間で、体力作りの授業により、基礎体力が伸びていることを評価したい。今後も継続して取り組んでほしい。
		スポーツテストの結果を活用し、体力向上を図り、偏差値3ポイント向上を目指す。	3ポイント以上A　0ポイント以上B －2ポイント以上C　－2ポイント未満D	B	2年男子＋1．5　3年男子＋0．3　2年女子＋2．0 3年女子＋1．0　平均＋1．2という結果で評価はBである。全学年プラスであったことは評価できる。	B		2年男子＋1．5　3年男子＋0．3　2年女子＋2．0 3年女子＋1．0　平均＋1．2という結果で評価はBである。全学年プラスであったことは評価できる。	昨年度から一年生の授業に体力作りの授業を取り入れるなど、授業内容を工夫している。	
	健康管理の意識を高める。	再検査受診率の向上を目指す。	80%以上A　55%以上B　30%以上C 30%未満D	C	検診によりバラつきがある。 歯科D内科B尿C眼科B。	C		受診率は少しずつ上がってきているが検査項目によりばらつきがあり、特に歯科の治療率が低い。	2学期保護者会で歯科検診結果を再度配布した。多少の効果はみられたが、さらなる工夫が必要。	
	食育の意識を高める。	朝食の摂取率の向上を目指す。	95%以上A　75%以上B　50%以上C 50%未満D	B	朝食を毎日食べる　88．1% 週に2～3回しか食べない　6．5% ほとんど食べない　4．3% 全く食べない　0．5%	B		若干（昨年比2．7ポイント）であるが、朝食の摂取率は向上し、「全く食べない」生徒は昨年同様0%である。	さらなる朝食摂取率向上を目指し、保護者や行政との連携を視野に入れた取組が必要。	
環境整備	「生活の場」の美化に努め、清潔、安全で美しい環境をつくる。	日々の清掃・美化活動を継続し、徹底する。	生徒アンケートにおいて、充実した清掃・美化活動を実施できた率が60%以上でA、50%以上でB、40%以上でC、40%未満でDとする。	A	各自、自分の分担場所でしっかりと掃除してくれており、概ね目標に到達していると考える。	A	B	施設的にかなり老朽化しているが、各自の清掃はきっちりできているように考える。これからも工夫を凝らして頑張っていきたい。	各自の努力だけではどうしようもないところも確かにある。しかし、その中でも学校を愛する心を育み「ゴミを出さない、ゴミを捨てない心」を育てていきたく思う。	ものを大切にする心を育てたり、美化意識を育てることは、学校教育の大切な柱の一つであると思うので、学校内だけでなく、通学路など校外でも清掃ボランティアの取組をもっと進めてほしい。
		通学路清掃等の奉仕活動を活発に行う。	美化委員に加え、有志のの参加数が前年比10%以上の増でA、5%以上の増でB、同程度でC、減でD。	-	諸事情により一学期には実施できなかった。今年度は二学期さらに三学期に実施する予定。	B		有志の参加数が若干減少した。今後もっと呼びかけていきたい。	来年度も継続して実施していきたい。	
特別活動	生徒会活動の活性化を図る。	生徒会執行部生徒が生徒会のリーダーとして主体的に考え、行動できるように指導する。また、各種委員会がそれぞれの分野で積極的に活動する。	昨年に比べて非常に活動が活発であればA、ある程度活発であればB、昨年と同じ程度の活動であればC、昨年より不活発であればD	B	委員会により活動頻度に差がある。	B	B	生徒会役員が6月に新しいメンバーとなり、50周年記念行事において、めざましい活躍をみせた。各種委員会においても前向きな取り組みがみられた。	今後も適切な指導・助言を続け、生徒の主体的な活動を促し、生徒会活動、委員会活動の活性化に取り組む。	生徒の活動が活発になるのは、学校の活性化になるので、積極的に支援し、指導してほしい。とりわけ様々なボランティア活動への参加を期待したい。
	文化祭を充実させる	文化祭実行委員会を中心に、できるだけ生徒が文化祭の企画・運営に主体的に参加できるように指導する。また、各クラス・クラブの発表内容の充実をはかる。	アンケートで「楽しかった」の回答が80%以上A、 60%以上B、40%以上C、40%未満D	A	アンケートの結果、「楽しかった」は80%だった。	A		1日目の舞台発表の参加団体が、文化部、2年生・3年生クラス発表等、15団体を数え、総鑑賞時間3時間に及ぶ、充実したものとなった。しかし、休憩時間をとる余裕が持てなかった。	来年度は、文化部の舞台発表の時間を充分にとり、2・3年生等のエントリー数が多い場合には、書類審査、抽選等により、参加団体数を10団体程度にしたい。	
教育情報	学校からの情報発信に努める。	ホームページを定期的に更新し、最新情報を発信する。	ホームページの更新　年間115回以上A/年間104回以上B/年間93回以上C/年間92回以下D	B	ホームページの新規ページ作成数は50です。週2回程度のBのペースです。	D	C	ホームページの新規ページ作成数は1月30日現在60です。3月末日までに週2回のペースは達成困難の見通しです。	本年度はクラブ関係のページの更新がやや減少しました。来年度は働きかけを強めます。	なかなかうまくHPを運営できていないようであるが、先生方が想像している以上に生駒高校の情報を得るときに、一般の方はHPにアクセスしている。校務で忙しいだろうが、できるだけ更新するよう取り組んでほしい。
	生徒の読書活動を推進する。	図書室利用の活発化を目指した積極的広報活動を充実させる。	図書委員による図書館便りの発行回数 年8回以上A、6回以上B、4回以上C、3回以下D	A	図書委員による図書館便りの発行回数は4回で年8回以上Aのペースで進行中。	A		貸出冊数は380冊増加。図書館便りの定期発行（8回）は定着してきたが、その内容に課題が残る。	全体テーマのもとに図書館便り発行年間計画をたて、各々の担当者だけでなく、図書委員会全体で取り組む。また、他の広報活動と連携する。	